

おみせ・イベント・相談会～お休み頂く企画もありますが、営業しているものもあります

	べらしお福祉住吉東店	コブン・カフェ	手づくりショップパンフ	Café コロたま
こんなお店	おいしい塩ラーメンが名物	おいしいコーヒーとサンドイッチがですか	オガリ作業所のお店。パンやパウンドケーキが売ります	阪和線我孫子町駅近く。安くておいしいランチをどうぞ
開店曜日	月～金	月～金	月～金	月～金
開店時間	11:30～13:30	9:30～14:30	10:00～16:00	11:30～14:30
備考				
	FamilyFriendlyらふら	みんなのマーケットるびなす	田辺大根堂	
こんなお店	子育て支援のグッズ販売しています	堺市南区高倉台の就労支援スーパーです	なごみ玄関でとれたて野菜と壱岐の乾物販売	その他の「カフェ」「食堂」関係のイベントはしばらくお休みさせていただきます。申し訳ございません
日にち	火～土	月～土	毎週木曜日	
時間	10:00～16:00	10:00～17:00	10:00～15:00	
備考				



らふら
Family friendly

京都市内にある陶芸教室で不要になった粘土から生まれた陶器プレート。ひとつひとつ違うネコの表情が評判です。900円です



米袋が材料のバックです、お米屋さんや近所の方々からも提供していただいた30kgのお米用のものを使用。3重構造で軽くて丈夫な上に、撥水性も強化し、機能性がバツグンです。外側は柿渋や蜜蝋を塗り重ねて防水効果と革製品のような風合いが出せました。2000円です

ご注文やその他の商品はこちらからお願いします →






大阪粉もん文化の代名詞「お好み焼き」をパンで表現しました。たっぷりソースにマヨネーズ、リピーターぞくしゅつ 続出のおいしさです。

パンブ今月の一品 ～お好み焼きパン

ライフサポートだより

Vol.213 2021年6月号
 (社福)ライフサポート協会
 〒558-0054
 大阪市住吉区塚山5-10-15
 TEL 06-6676-0753
 ホーム <http://www.lifesupport.or.jp>
 メール info@lifesupport.or.jp

感染対策の取り組みと施設面会のあり方について

認知症ケア学会での報告





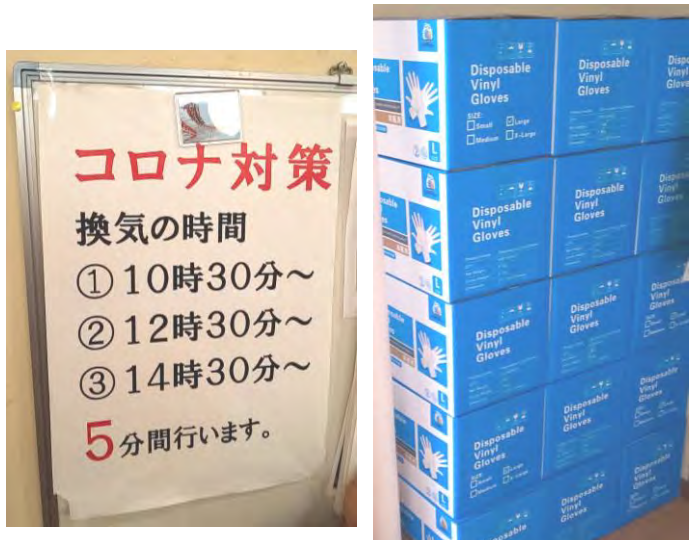
多くの医療福祉事業所がそうであるように、ライフサポート協会内でもこの1年は感染対策の取り組みに費やしてきました。法人全体(利用者・職員あわせて)で計11名の感染事例が発生し、家族の感染等によって濃厚接触者となった事例も何度か報告されています。幸い5月段階で重症にいたった例や、クラスターと認定された例はありませんが、変異株の拡大もあり、医療機関もひっ迫し、依然として予断を許さない状況が続いています。

このような状況下で、生活の場である「特養なごみ」やグループホームなどでは、検温や出勤時の消毒、こまめなマスクや手袋の交換、定期的な換気、記録の徹底、休日の行動に至るまで書かれた「職員10の心得」を策定し、施設内感染予防に努めてきました。

右の写真にあるように備蓄の防護服やマスク・手袋・消毒液もそろえてきました。

その上で、職員間でも議論をしました。施設内の「面会」については、条件付きで可能としているなごみですが、その議論を受けた取り組みの試行錯誤を認知症ケア学会で報告しましたので、要約版になりますが、次のページに掲載いたします。

-  **体調不良者の面会等はお断り。**
面会等についてはお断りする。
 (体調不良の方の体調に問題がなくても、ウェブによる面会の実施を促すことや、2週間以内の発熱がなかったか等を確認。)
-  **来訪者を記録する。**
来訪者は感染発生時のための積極的疫学調査への協力の観点から、氏名、来訪日時等を記録し、保健所等の指示があれば公表する。



「面会禁止への疑問」の声

(おもてからの続きです)

一通りの感染症対策としてすべきことはしたのですが、その段階で、こと面会については、単純に「禁止」でいいのかという疑問が職員間であがりました。特養は、病院ではなくあくまでも生活の場です。入居者さんの平均年齢は90才を超え、要介護5の方が半数を占め、いつ何が起こってもおかしくないのに、感染防止とは言え、一律面会禁止は入居者さんにとっても、ご家族さんにとってもあまりに耐えがたいことではないかという意見です。さらには、ご本人の持つ力を奪う事にもなりかねないこと（ご家族の来所を待つあまり、エレベーターをじっと見つめる方もおられました）タブレット面会についても用意はしたものの、家族も高齢だったり、認知症のためか画面越しのやりとりができないなどもありました。



面会実施の方針と試行錯誤

経営会議の論議の結果、昨年4月には「特養入口での検温等と面会簿への記入」「個室での面会」「マスクの着用」「お帰りの際には触った箇所の消毒」という条件のもとでの面会を可能としました。でも、職員間には別の意見もありました。



そんな中2020年5月、なごみデイサービスで感染者が発生しました。特養の職員の接触もなく導線も別とはいえ、特養の面会についても再度禁止としました。他方で、看取りに入られた方のご家族さんは面会をしていただいたなど、状況に応じて判断をしていました。その間にも論議は続きました。デイ職員の接触者（検査は陰性ながら濃厚接触者であり、2週間の隔離）の復帰段階で、施設内感染は広がらなかったとみて、再度「条件付き面会」を再開しました。

現在の状況

10月の厚生労働省老健局の

事務連絡では、利用者の心身に与えるポジティブな影響や地域の感染状況などを総合的に勘案し、施設側で実施の可否個別に判断するルールへ変更されました。全国老人福祉施設協議会でも「制限」の表現は緩和されました。とはいえ多くの施設が禁止にしていますし、確かに感染状況は予断を許しません。「面会ができる」ことが即、高いリスクとなる

わけではないにしても、職員個々の休日を含めた緊張感につながり、ご家族も『第4波』以降は面会件数も減っています。それぞれが入居者さんをおもうゆえに面会もされますし、時には抑制もされています。法人としてはその思いに応えるためにも、引き続き気を緩めずに感染対策を継続していきます



コロナ禍であってもできたこと
・お散歩
・地域のボランティアさんの家の前の花壇を見ながら休憩

好きなことから支援につなぐ～はぴな(生活介護)実践報告から

泉北拠点の「はぴな」(障がい者通所)からの報告です。利用者の

Sくん(18歳)はまじめな方で、スケジュールをたてるとその通りきちり過ごされます。他方で知的障がい・自閉症もあり、苦手な活動や取り組みの時には、机をたたき、大きな声をだす等をしてしまうことがしばしばみられました。そこで「強化子アセスメント」(興味のあることを探す)に取り組みました。ご家族さんにも協力いただき、Sくんにとって興味関心がある



ものは「おやつ」「おながく」だとわかったので、絵カードにして、自発的要求がしやすいように絵カードリスト(左の写真)にしました。そのカードを用いて「〇〇したい人は□□をがんばります」といった具合にSくんとコミュニケーションを取るようにしてスケジュールで見通しをたて、活動参加もスムーズになっていきました。さらに、彼からも絵カードを渡すことで要求や意思表示もできるようになりました。これからはSくんの強みをいかした支援をチームで実践していきます!!

特養なごみで「グルメ紀行? Go To Eat!」

特別養護老人ホームなごみには、海外出身の職員が数名います。そのうちベトナム出身の職員さんが3月にベトナム料理の「フォー」を作ってくれました。「だしがきいていておいしい」と入居者さんにも大変好評でした



これを機に、この1年で入居者さん・職員の出身地の名物料理を作っていくことになりました。国内外の美味しい料理を順番に食べていきます。旅行も外食も困難な中ですが、楽しみたいと思います